

【スローガン】

報恩謝徳

～見てきた背中を見せてこそ JAYCEE!～

【所信】

1. はじめに

迷う理由すら解らずに門を叩いた青年会議所。見るもの聞くことに新鮮さを感じることもなく、ただただ目的も見出せずに浅い関わり方をしてきた入会間もない頃の自分を振り返ると、あまりの熱意のなさに、価値観を見つけるまでにどれだけ無駄な時間を過ごしたのだと反省するばかりです。しかし、少しずつ関わりを深めていくにつれて、ひとに恩を感じ、地域に恩を感じ、その感覚が自身の成長とも感じ、いつしか気持ちの入り込んだ活動をしていくようになっていました。先輩方の大きな背中に憧れを抱きながら。

今、青年会議所の意義や価値観を問われた時、自分はなんて答えるだろうか。「明るい豊かな社会の実現」というのは大前提であり、我々が普遍の志としているのは間違いありません。今を生きる我々青年も、俗にいう便利な世の中という進化の恩恵を受け、物質的に実現されてきた豊かさの中で、仕事や生活をしています。しかし、それらを当たり前と感じられる今の時代があるのは、物質的な豊かさだけではなく、戦後の奇跡的復興をも飲み込んだ自然の驚異等からも幾度となく立ち上がり、世界から賞賛を得た、自己犠牲を惜しまない日本人のすばらしい精神性と、歴史や伝統を様々な形で築き上げ守ってきた先人たちの、国の為、地域の為、ひとの為にという精神の下に、たゆまぬ努力があったからこそではないでしょうか。その気持ちをしっかりと胸に刻み、感謝をし、恩とを感じる豊かな心をもってこそ、明るい豊かな社会が実現するのだと強く信じて疑いません。そして、受け継いだ我々世代が、しっかりと背中に表し、後へ繋いでいくことも忘れてはなりません。そんな意義と価値観を、青年会議所においても見出すことができ、受けためぐみや恩に対して、報いる感謝の気持ちを忘れてはならないのだと強く感じます。

三島青年会議所も55年という歴史があり、先を歩いた先輩方が努力をおしまわず残してくださった歴史や伝統を、今を生きる、今を歩く我々は、時代に合わせた進化を加えながら、地域からの恩、ひとからの恩を忘れずに、自分づくりを怠ることなく、その志をしっかりと伝え集め、^{まこと}真の「明るい豊かな社会の実現」に向けて、運動に邁進してまいります。

2. ひとを育む

情報技術革命の推進など、先人たちの努力のお陰で、今の時代のひとびとの暮らしはますます便利になっていくように思います。しかし、世界情勢がつぶさに分かるような情報洪水の中で、ひとびとは最も身近な情報ばかりに関心を向けるのではなく、自分自身を振り返ることにもっと重きをおくべきだと感じます。それは、情報技術という国際社会において明確な存在価値の確立がされているものと同時に、ひとは、己の存在価値の確立を求めて、守るべき道徳を大切に、公に規範を示しながら、世界から評価されている日本社会に脈々と息づいている武士道的精神を養い、自己についての探求を疎かにせず、日本人としてのアイデンティティを確かなものとする必要があると考えるからです。己の足りない所に気付いてこそ、次の一步を踏み出せます。知識ではなく、実践を求めた強いリーダーシップを発揮できるよう、自分づくりを怠らず、日本人らしい精神性を持った、社会に対して、より説得力を増した行動ができるような、ひとを育む事業を展開してまいります。

また、次世代を担う子どもたちに、先人たちに残していただいた豊かな社会と、大きな背中を見せ続けていただき、成長の機会を多く与えていただいた事への感謝を胸に、より良い社会の中で、健全なる成長の手助けをし続ける事は、我々青年をはじめとする大人の重要な責任であり、それをしっかり続けていくことが、先人たちに対してできる最大の恩返しにも繋がるのではないのでしょうか。その気概を常に持ち、溢れんばかりの子どもたちの能力や魅力を限りなく引き出し、素晴らしい未来を描けるよう、ひとを思いやり感謝をし、自我の芽生えに気付くことの大切さを伝えていかなければならないと考えます。その機会と経験こそが、日本人として、この地域の一員としてのアイデンティティを確かなものとし、次世代を担う子どもたちの確実な成長へと繋がります。子どもたちが、自ら考え行動し、自分の事ばかりではなく仲間の事を思いやり、大人や地域への感謝を抱きながら、やればできるという心の芽生えで自立心を高め、ものごとへの挑戦過程で柔軟な創造力を養う事ができるような青少年育成事業を進めてまいります。

3. 組織を育む

「新しい日本の再建は我々青年の仕事である」という覚悟を持って踏み出した青年会議所の第一歩は、創始の志として、今も脈々と受け継がれています。「ひとづくり」「まちづくり」「仲間づくり」「自己研鑽」等、今の時代になっても、手法は変化を見せ、新たな挑戦を繰り返しながらも、根底にある気概は変わっていないはずです。そして、それは家庭や仕事という、自身が身をおいている環境からの理解があるからだという事への感謝も忘れてはなりません。情熱を注ぎ活動している組織に在しているからには、青年会議所での学びを成長という姿に進化させ、しっかりと会社や家庭に持ち帰るのも我々の担いであるということも。それができる組織だからこそ、己を律し、情熱を注ぐべきであると考えま

す。己を律し、組織を律し、先輩たちが輝かせ繋いできた、歴史あるこの青年会議所に誇りを持って、確実に後へ繋げていくためにも、一人ひとりが明るい豊かな社会の実現に情熱を注ぐ、会社や家族、仲間や先を歩いた先輩方への感謝を常に忘れず、リーダーとしての気概で、個人の資質向上に励み、受け継がれ続ける強靱な誇りを身にまとった、努力を怠らない最高の組織の維持と進化に努めてまいります。

年齢の定めがあり、入れ替わりを繰り返す組織ではあるが、英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築きあげようという組織であることは、変わらずぶれてはなりません。地域に必要とされる組織、この青年会議所が歴史伝統に進化を加えて、地域に強固な存在感を持ち続ける為にも、同じ志の集まりであり続けるよう、青年会議所運動の意義や価値観を共有し、広く地域に発信しつつ、会員拡大の推進を止めることなく、迎える新しい仲間にもしっかりと継承していく取り組みを進めてまいります。

併せて、公益社団法人としての会計面等、適正な管理運営に注力をし、組織の維持と進化をしていく中で、緩みや足かせとならぬよう、より良く効率を高める為に、精査をおろそかにせず進めてまいります。

4. 地域を育む

国を形成しているのは地域であり、地域を形成しているのはまぎれもなくひとであると考えます。先人たちのたゆまぬ努力によって、今のこの地域があり、守り受け継いでいくべき歴史、文化、伝統を地域の誇りと捉えるのと同時に、注目の世界的大舞台に大きく関わることのできる、恵まれたこの地域に対して、地域のひとびとが、主体的になって、地域の担い手なのだという自発的な精神を持ち行動を起こすことが、更なる誇りとなって地域を形成していくに違いありません。2014年度、我々三島青年会議所は、第47回ブロック大会を主管し、「地域を誇りに思う心が原動力となる」という思いを掲げました。この地域への誇りを沸き立たせ、先人たちへの感謝を忘れず、この地域で生きていること、この地域の素晴らしさを子どもたちに伝え継いでいく。今を生きる我々青年は、しっかりと伝え繋ぎ、多くのひとびとと協働し、地域の一人ひとりがその担い手だという意識変革を実践していく責任があると強く感じます。地域の為の、次世代の子どもたちに繋げる為の、原動力を輝かすことのできるような運動を進めてまいります。

また、先人たちのたゆまぬ努力と、この誇り溢れる地域をしっかりと守り繋ぐ為にも、環境への意識を常に持ち、災害有事の際にもしっかりとした連絡体制の下、全力で対応してまいります。

5. 最後に

激動の時代の中、全人類の光明たる私たち青年が己を律することで自らを磨き、
純粋な正義感と揺るぎない信念を携えて青年会議所運動を展開することが、
常に時代に頼られる存在としてあり続けることなのです。

青年の英知と勇気を結集させた運動を実践に移すこと、
情熱溢れる行動を力強く展開することこそが我々の責務なのです。
新日本の再建を夢に描き起ちあがった先達の、創始の気概を胸に。

「公益社団法人日本青年会議所 2010年代運動指針 むすびの項より抜粋」

先人たちが現在を見て、自分たちが頑張ってきて良かったと思える現在にしないと未来には繋がらない。ひとは試練を重ねるたびに強くなり、失敗から学ぶことが大半を占めるであろう。価値ある青年期に情熱を注ぎ、どんな苦難や失敗があっても、そのこと自体が己のキャリアとなります。こだわりを持って走り続け、終わりの美学を追い求めてバトンを渡せば、伝統と志がしっかり未来に繋がれ、その先も走り続けることでしょう。

歴史あるこの地域や組織の中で、私たちはしっかり手をたずさえ合える仲間であり続けたい。個性や強みを活かし、弱みを補っていきながら、受けためぐみや恩に対して、報いる感謝の気持ちを忘れずに、共に情熱を燃やし、本気になって行動を起こし、個人と組織の成長に繋げ、すべては明るい豊かな社会を創る為に、見てきた背中を見せていきましょう。